

## 1 背景と目的

- 吉備中央町インクルーシブスクエア 組合員 システムズナカシマ
- 吉備中央町 両備システムズ
- 富士通Japan あいおいニッセイ同和損害保険
- 岡山大学

### 岡山県の中央(へそ) 吉備中央町



- 人口 10,925人
- 世帯 5,292世帯
- 面積 26,778ha
- 標高 120~500m
- 気候 高原冷涼
- 地質 強固な地盤

- きびプラザ
- 交通結節点
- 飲食店やコンビニ有
- [中鉄バス]最終発 : 17:35
- 最終着 : 19:53
- [備北バス]最終発 : 18:13
- 最終着 : 19:53



バス路線網 (出典: 吉備中央町地域公共交通計画 令和5年度)

吉備高原都市

### 目的: 町内の公共交通に関する課題への対策

#### 課題① 大和地区のデマンド型乗合タクシーの運行効率が悪い

大和地区はタクシーの営業所から離れた地域のため、営業所から送迎に係る負担が大きく運賃面でタクシーの運行が非効率となっている。また、地区内唯一の医療機関であるルミエール病院まで移動するためのバス路線がない交通空白地域となっている。住民からの要望がある一方で経費面の課題が大きく、継続可能な公共交通システムの確立が望まれる。

#### 課題② 家族の送迎負担

バスの最終発車時刻は17時台や18時台と早く、夕方は1時間に1本程度の本数であり、町営塾後や町外の高校へのバス通学のため、中学生や高校生の保護者等は塾やバス停まで自家用車で迎えに来ている人が多く、自ら運転できない住民は自由な移動ができていない現状がある。

#### 対策案1 デマンド型乗合タクシーの増便

2種類 (大和地区特別便、通塾通学特別便) の貸切便

#### 対策案2 MaaSコントロールセンターの運営

「移動サポートデスク」を設置し 統一受付と移動(\*)を促す提案 プロモーションの実施

増便だけでは利用が進まず効率が悪い

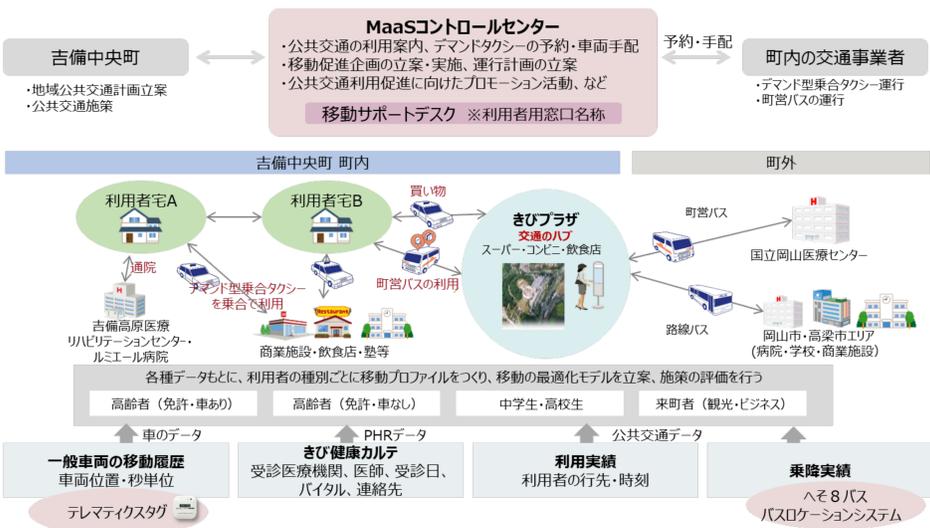
(\*)データに基づいた公共交通の利用数と乗合率が高まるような移動モデル

## 2 実証内容と結果

### 実証期間

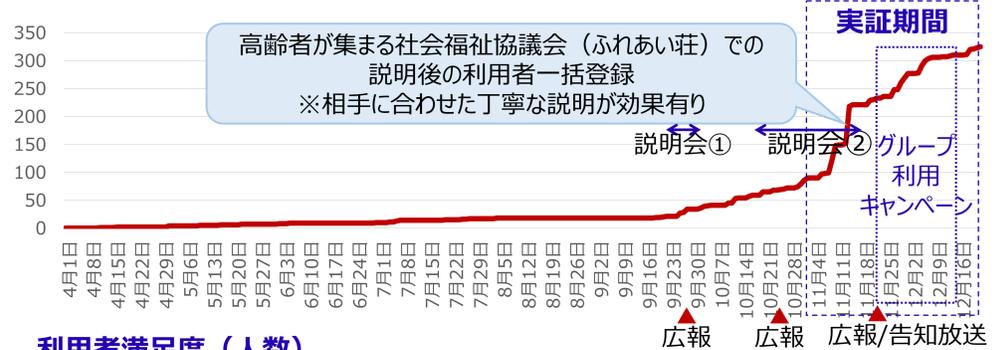
2023年11月1日~12月24日を2期に分け、実証→評価・分析→実証にフィードバックする形で推進

施策	1期:11月1日~12月1日 内容と結果	2期:12月4日~12月22日 内容と結果
<b>① デマンド型乗合タクシーの増便: 2種類の貸切便として増便</b>		
<b>大和地区特別便</b> 【対応課題】大和地区の運行効率が悪い ※ルミエール病院への移動	【運行】平日8:30~13:30 【ターゲット】午前中の大和地区への通院 【結果】利用者数10人 利用回数28回 ・病院でのワクチン接種のため午後利用の要望あり ・グループ利用は通常便の調整難	【改善】運行時間の延長、グループ利用キャンペーン等団体利用者もターゲットに追加 【運行】平日8:30~17:00 【ターゲット】町全域利用に拡大 【結果】利用者数10人 利用回数28回
<b>通塾・通学特別便</b> 【対応課題】家族の送迎負担 ※中学生の通塾後と高校生帰宅時バス降車後の移動	【運行】平日18:00~21:00 【結果】利用者数16人、利用回数85回の定期的な利用 ・テスト/冬期講習時間の対応要望有	【改善】テスト/冬期講習時間に対応し、運行間を早めた運行を実施 【運行】平日17:00~21:00 【結果】利用者数20人に拡大
<b>② MaaSコントロールセンターの運営</b>		
「移動サポートデスク」での統一受付と移動を促す提案	利用促進案内、受電時に次回の予約提案 (56%成立) 【課題】提案数不足	【改善】追加でテレアポでのデマンド案内や予約・行先の提案 (6.4%成立)



### 効果① プロモーションによる利用者数の増加

- 登録者数はのべ500人に増加、利用者は実証前の3倍に増加
- 大和便は時間・曜日で利用数の偏りがあり、学生便は定期的に利用され、ニーズ有

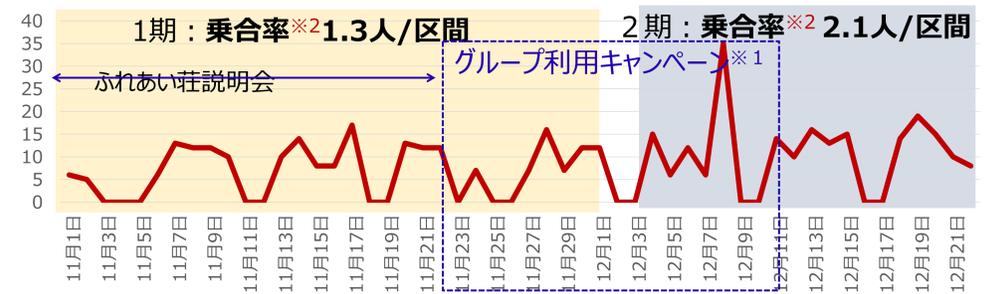


#### 利用者満足度 (人数)



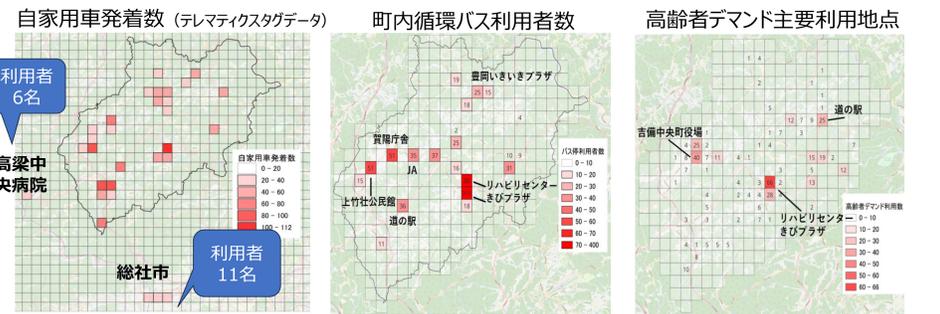
### 効果② 乗合率向上と移動需要の創出

- 受電時の周追追加提案成功率56%
- 金融機関経由/町内観光モデルのニーズ有。乗合率向上はグループ利用キャンペーンの影響大



### 効果③ 町内外の移動ニーズの把握

- 自家用車の移動履歴、町内循環バスの利用実績、デマンド交通の利用実績といった移動データから見える、移動の現状とニーズが把握できた
- 町内の主要移動箇所は公共交通 (町内循環バス、デマンド交通) で押さえられているが、自家用車ユーザの移動ニーズには町外移動もある



※それぞれ11月~12月のデータ

## 3 結論

- MaaSコントロールセンターで、地域の移動需要を調査し、能動的に移動手段を提供し、主体的に住民に移動を促すことで、利用数、乗合率を向上できたことが確認できた。
- 地域の移動需要について、従来のアンケートや公共交通の乗降分析に加えて、自家用車のテレマティクスデータによる分析を加えることで、移動実態やニーズを把握できた。